2012年7月11日

報道関係各位

日本橋で江戸文化を後世に伝える　～夏の特別企画～

江戸写し絵　三代目薩摩駒花太夫襲名記念

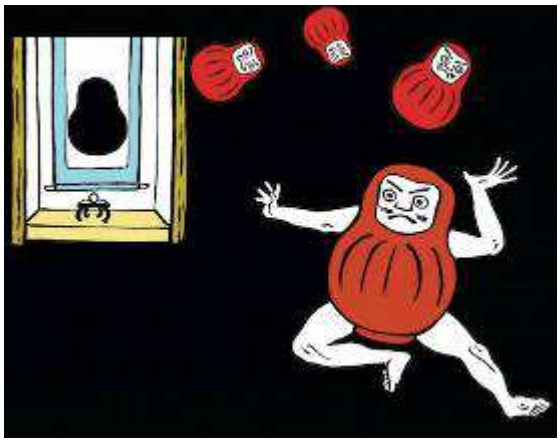
8/30(木)三越劇場「江戸の賑わい」公演

8/19(日)YUITO　子ども写し絵ワークショップ

「えどのアニメをつくってみよう！」

日本の伝統芸能専門のイベント企画会社・有限会社　新日屋(代表：山口洋文)は、2012年8月30日(木)に、三越劇場(東京都中央区日本橋室町、日本橋三越本館6階)で、江戸にはじまり昭和初期に滅んだ日本独自の影絵「江戸写し絵」(えどうつしえ)を現代に復活させた、山形文雄さんによる三代目薩摩駒花太夫襲名記念公演「江戸の賑わい」を開催します。写し絵とともに、午前の部は日本の古典マジック「江戸手妻」、午後の部は芳町芸者衆による伝統の踊り「吉兆手打式」も同時開催でお楽しみいただきます。

関連イベントとして、8月19日(日)に、YUITO　5F(ユイト、中央区日本橋室町)で、小学生を対象にした江戸写し絵(えどうつしえ)のワークショップ「～スクリーンをとびだせ～えどのアニメをつくってみよう！」を開催します。今回は、ダンボールと電球で「風呂」と呼ばれる映写機を作り、プラスチックシートに絵を描き「種板」と呼ばれるスライド作ります。映像を投影する仕組みを学ぶとともに、動いて見えるイラストを工夫します。完成した風呂や種板は持ち帰れる(1 組 1 台)ので、夏休みの自由研究に最適。映写機は手に持って動かし、映像をスクリーンや壁に自由に写せます。それぞれが作った映像を組み合わせることで無限のアニメーションが生まれます。決められた遊び方に慣れてしまった現代の子どもたちにこそ、ぜひ体験して欲しい創造の喜びです。



左：江戸写し絵 「だるま夜話」　右：子どもワークショップ風景

「江戸の賑わい」 江戸写し絵（えどうつしえ）

江戸写し絵は、午前の部、午後の部ともに上演。内容は共通で、落語家の林家正雀による怪談とともに上演する「怪談　牡丹灯籠」、江戸の風物詩両国の花火を描いた「花火だるま」。上演の合間に、三代目薩摩駒花太夫こと山形文雄による江戸写し絵についての解説もある。

〇アニメの原点・江戸写し絵とは

江戸後期に誕生し、昭和初期に滅んだ日本独自の影絵。18世紀にオランダから渡来した幻灯機（マジックランタン）の原理を応用して独自に発達した。ガラス板に絵を描いた「種板」と呼ばれるスライドを、「風呂」と呼ばれる木製の映写機で和紙のスクリーンに写し出し、物語に合わせて語りや音曲を加える独特の芸能。フィルムに固定された映像ではなく、登場人物や場面に合わせて、何人もの写し絵師が風呂を動かしたり、からくり仕掛けで絵が動いて見えるようにして演じる。スクリーンの後ろから投影するので、見物人からは見えず、「絵が動いて芝居をしている」と驚かれた。映画に先駆けた映像芸術、日本のアニメの原点としてハリウッド「映画アカデミー」など海外で高く評価されている。

「風呂」：映写機のこと。箱の中に光源が入っており、レンズを通して種板（スライド）に描かれた絵をスクリーンに映す。日本で改良され、演者が抱え持って動かして映像を自在に投影できるようになった。

「種板」：5センチ角のガラス板に絵を描いたスライド。風呂にセットして使用する。シーンごとに種板を変えて物語を展開していく。絵を動いているように見せるからくり仕掛けが施されたものもある。

三代目薩摩駒花太夫（さつまこまはなだゆう）襲名　山形文雄

影絵専門劇団みんわ座代表。偶然目にした写し絵の記事に衝撃を受け、1枚の図をもとに風呂（映写機）の復元を開始。試行錯誤を繰り返して、1984年に復元に成功。93年に江戸写し絵の本格的な復活公演を行う。この度、三代目薩摩駒花太夫を襲名し、貴重な種板も譲り受けた。

《同時開催》

午前の部　江戸手妻（えどてづま）　出演：藤山新太郎一門

日本人が考え、独自のスタイルを作り上げた古典マジックが江戸手妻。「手を稲妻の如く素早く動かす」ことから手妻と呼ばれる。不思議さを前面に出すのではなく、背景に風情やストーリーがあるのが魅力。手妻の傑作「蝶のたはむれ」は飛ぶことのふしぎさよりも、蝶の一生を語ることに目的がある。型や表情も美しく、洗練されている。幕末から明治にかけて海外でも大評判となったが、西洋マジックに押され衰退。現在、正統的な手妻を継承するのは、芸術祭賞を3度受賞した江戸手妻の第一人者で日本奇術協会副会長を務める藤山新太郎一門の4名のみ。

＊午前の部特別プラン　日本橋弁松総本店「百寿」弁当付　5000円

現在の日本橋が架橋されて100周年を記念して1911円で販売されていた弁当「百寿」を特別に復活。江戸前の味とともに、箱も楽しめる豪華な一折。

午後の部　「吉兆手打式」（よしちょうてうちしき）　出演：芳町芸者衆

日本橋人形町にある芳町花柳界は、東京の六つの花街で最も歴史があり、江戸時代から続いている。「よろずよし町芸どころ」と称され、芸に秀でていることで名高かった。昭和34年に芳町芸者衆のためにつくられた踊り「吉兆手打式」は、明治座で行われていた「葭町をどり」のフィナーレを飾り、当時は総勢200名もの芸者衆が黒紋付で舞台に勢揃いして華やかに踊った。京都の鴨川をどりも手がけた舞台美術家の林悌三（ていぞう）が作詞し、芳町芸者の由緒や四季の風物を詠み込んだもの。

＊午後の部特別プラン　三越ビアガーデン付　7000円

芳町芸者と楽しむビアガーデン。日本橋三越本館屋上にあるビアガーデンは開放感と豊富なメニューが人気。芳町芸者が特別にお席をまわり、記念撮影などお楽しみいただけます。

飲み放題・食べ放題（2時間制）

ドリンク：生ビール・ワインなど　約 20 種類以上

食事：和・洋・中華総菜・デザートなど　約 30 種類以上

関連イベント

■　子ども写し絵ワークショップ

「江戸遊学」トークショーの前に、小学生の親子を対象にしたワークショップを開催する。実際に写し絵の道具である「風呂」や「種板」をダンボールなどで作って、映像を写してみる。完成した風呂や種板は持ち帰れるので、夏休みの自由研究にも最適。

左：ワークショップ風景　　中：種板（スライド）　　右：ダンボール製の風呂（映写機）

【日　時】 平成24年8月19日（日） 11時～ （開場10時30分）

【料　金】 親子1組　5000円（「江戸の賑わい」午前の部チケット2枚(7000円相当)付、材料費込）

＊　限定10組

＊　対象：小学生以上のお子様と保護者

＊　作品は1組につき1つお持ち帰りいただけます

【会　場】 YUITO　5F（ユイト）

【交　通】 地下鉄銀座線・半蔵門線「三越前駅」

「江戸の賑わい」 詳細

【日　時】 平成24年8月30日（木）

〇午前の部

　開演：11時～（終演13時予定）

　演目：江戸写し絵、江戸手妻

　料金：3500円／日本橋弁松総本店特製弁当付きプラン5000円

〇午後の部

　開演：15時半～（終演17時予定）

　演目：江戸写し絵、吉兆手打式

　料金：4000円／ビアガーデン付きプラン7000円

【出　演】

江戸写し絵：三代目薩摩駒花太夫、劇団みんわ座、林家正雀

江戸手妻：藤山新太郎一門

吉兆手打式：芳町芸者衆

【会　場】 三越劇場（日本橋三越本館6F）

【交　通】 地下鉄銀座線・半蔵門線「三越前駅」

【お問い合わせ・お申し込み】

芝居茶屋　新日屋（しんにちや）

電話　03－5652－5403　（受付：平日 10～17 時）

ＦＡＸ　03－5652－5404

Email:　reservation@shinnichiya.com

URL: http://www.shinnichiya.com

「芝居茶屋 新日屋」

主催するのは、日本の伝統芸能専門のイベント企画会社・芝居茶屋　新日屋（しばいちゃや　しんにちや）。芝居茶屋とは、江戸時代の芝居小屋に隣接した料理屋ですが、食事だけでなく、座席や乗り物、着替え場所の手配なども引き受け、芝居見物の一日を楽しませました。新日屋は現代の芝居茶屋として、東京の豊かな伝統芸能を活用して、空間や食事にもこだわった、江戸風の楽しみ方を提案しています。

＜報道関係からの本リリースに関するお問い合わせ先＞
芝居茶屋　新日屋　担当：山口、塚本
Email:　reservation@shinnichiya.com
TEL：03-5652-5403　FAX:03-5652-5404
〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町 13-3-4F
URL: http://www.shinnichiya.com